



# 平成30年11月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年10月5日

上場会社名 株式会社サーラコーポレーション  
 コード番号 2734 URL <http://www.sala.jp/>

上場取引所 東名

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 神野吾郎

問合せ先責任者 (役職名) 総務部総務グループマネージャー (氏名) 武川裕樹

TEL 0532-51-1182

四半期報告書提出予定日 平成30年10月10日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成30年11月期第3四半期の連結業績(平成29年12月1日～平成30年8月31日)

### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年11月期第3四半期	154,146	3.6	4,893	4.5	4,789	11.4	3,282	6.8
29年11月期第3四半期	148,729	46.7	5,121	69.2	5,406	58.8	3,523	69.4

(注) 包括利益 30年11月期第3四半期 3,454百万円 (7.5%) 29年11月期第3四半期 3,734百万円 (67.6%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年11月期第3四半期	53.60	
29年11月期第3四半期	66.20	

### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年11月期第3四半期	175,718	55,226	30.8
29年11月期	170,630	53,125	30.5

(参考) 自己資本 30年11月期第3四半期 54,156百万円 29年11月期 52,114百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年11月期		7.00		11.00	18.00
30年11月期		9.00			
30年11月期(予想)				9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成30年11月期の連結業績予想(平成29年12月1日～平成30年11月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	208,000	4.2	5,100	8.6	5,500	22.4	3,500	26.2	57.20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- |                    |     |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更         | : 無 |
| 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年11月期3Q	66,041,147 株	29年11月期	66,041,147 株
期末自己株式数	30年11月期3Q	4,586,323 株	29年11月期	4,849,179 株
期中平均株式数(四半期累計)	30年11月期3Q	61,242,735 株	29年11月期3Q	53,226,163 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

#### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(セグメント情報) .....	8
(重要な後発事象) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、企業収益が改善し緩やかな回復基調で推移したものの、米国の金融政策の動向や不安定な国際情勢が続くなど、景気の先行きは不透明な状況が続きました。

エネルギー業界では、当社グループ（以下、「サーラグループ」といいます。）の都市ガス供給エリアでは小売全面自由化以降新たに参入した企業はないものの、大都市圏において既存のエリアを越えたエネルギー大手事業者間の提携が進み、エネルギー業界における新たな枠組みづくりが始まっています。

このような状況のなか、サーラグループは平成28年12月より、「私のまちにはSALLAがある ～暮らしとエネルギーのSALLAへ～」をテーマに掲げた第3次中期経営計画に基づく重点課題に取り組みました。本中期経営計画では、既存事業の強化に引き続き取り組むとともに、サービス体制から事業展開、組織運営に至るまで徹底してお客さま起点から見直すことにより、「暮らしとエネルギーのSALLA」として広く地域に浸透することを目指しています。

当第3四半期連結累計期間におきましては、エネルギー&ソリューションズ事業におけるお客さま視点のサービスを実現する第一歩として、中部瓦斯株式会社とガステックサービス株式会社の本社機能を統合するとともに、両社の役員を同一にするなど事業会社の枠を超えた組織再編に取り組みしました。

エネルギー&ソリューションズ事業において平成28年4月に開始した電力小売販売は、サーラグループの商材と組み合わせたお得な料金プランの提案などグループを挙げてお客さまの獲得に努めた結果、平成30年7月に申込み件数が3万件を超えました。

また、IT等の駆使によるお客さま情報を重視したビジネスの創造を目的として、平成29年12月に株式会社サーラライフスタイルイノベーションを設立しました。同社はサーラグループが保有するデータを最大活用し、お客さまのライフステージにおける様々な課題を解決する仕組みを構築していきます。

さらに、サーラ住宅株式会社は湿度のコントロールにより一年中快適な住まい空間を実現する全館調湿換気システム搭載の「Best-air（ベストエア）」を採用した春日井展示場、西尾展示場を愛知県内に相次いで開設し、周辺エリアにおける注文住宅の販売強化に取り組みました。

当第3四半期連結累計期間の業績につきましては、エネルギー&ソリューションズ事業におけるガス、石油製品の販売価格の上昇などにより、売上高は154,146百万円と前年同期比3.6%増加しました。利益面はハウジング事業において住宅の販売棟数が減少したことなどにより、営業利益は4,893百万円と前年同期比4.5%減少しました。また、キャッシュ・フローの動きを伴わない四半期末日時点の時価評価として、営業外費用に為替予約に係るデリバティブ評価損445百万円を計上したことにより、経常利益は前年同期比11.4%減の4,789百万円、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比6.8%減の3,282百万円となりました。

セグメント別の概況は次のとおりです。

#### エネルギー&ソリューションズ事業

売上高71,094百万円（前年同期比8.6%増）、営業利益3,444百万円（前年同期比6.3%増）

都市ガス、LPガスともにガス販売量は前年同期並みとなりました。ガス、石油製品の販売価格の上昇に加え、電力小売販売の取組み強化によりサーラの電気のお客さま数が増加したため、売上高は増加しました。利益面は都市ガスの売上高増加に伴い売上総利益が増加したことに加え、販売費及び一般管理費の低減に努めたことにより営業利益は増加しました。

#### エンジニアリング&メンテナンス事業

売上高21,073百万円（前年同期比4.0%増）、営業利益1,130百万円（前年同期比49.7%増）

設備部門において大型物件の完成工事が増加したことや、メンテナンス部門において大型のメンテナンス工事が増加したことにより売上高は増加しました。利益面は売上高の増加に加え、設備及びメンテナンス部門の完成工事の利益率が高い水準にあったため、営業利益は大幅に増加しました。

#### ハウジング事業

売上高23,807百万円（前年同期比1.7%減）、営業損失101百万円（前年同期は営業利益488百万円）

住宅販売部門において注文住宅、分譲住宅ともに販売棟数が減少したため売上高は減少しました。利益面は住宅部資材加工・販売部門の実績は前年同期並みで推移したものの、住宅の販売棟数の減少が響き営業損失を計上しました。

カーライフサポート事業

売上高11,072百万円（前年同期比11.2%増）、営業損失66百万円（前年同期は営業損失170百万円）

中古車販売の取組みを強化したことにより、フォルクスワーゲン、アウディともに中古車の販売台数が増加したことに加え、アウディの新車販売台数が増加したため売上高は増加し、営業損失は縮小しました。

アニマルヘルスケア事業

売上高19,711百万円（前年同期比3.7%増）、営業利益601百万円（前年同期比16.6%増）

畜産部門における動物用医薬品の販売や、ペット関連部門における主要取引先に対する新商品の販売が好調に推移しました。また、両部門においてお客さまへの提案営業の取組みを強化したことにより売上高、営業利益ともに増加しました。

プロパティ事業

売上高4,242百万円（前年同期比43.7%減）、営業利益228百万円（前年同期比63.9%減）

資産マネジメント部門は賃貸料収入が増加したことにより堅調に推移しましたが、セグメント全体では前年同期の業績は期中に完成した分譲マンションの販売実績が大きく寄与していたため、売上高、営業利益ともに大幅に減少しました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

資産は175,718百万円と、前連結会計年度末と比較して5,088百万円増加しました。これは主に、「仕掛品」が2,892百万円増加したこと、「商品及び製品」が1,412百万円増加したこと、「有形固定資産」が1,320百万円増加したこと、「受取手形及び売掛金」が283百万円増加したことに対し、「長期貸付金」が415百万円減少したこと、「現金及び預金」が393百万円減少したこと、「無形固定資産」が231百万円減少したことによるものであります。

(負債)

負債は120,492百万円と、前連結会計年度末と比較して2,987百万円増加しました。これは主に、「長期借入金」が4,097百万円増加したこと、「短期借入金」が3,599百万円増加したこと、「固定負債のその他」に含まれる「長期未払金」が965百万円増加したことに対し、「1年内返済予定の長期借入金」が1,924百万円減少したこと、「支払手形及び買掛金」が1,666百万円減少したこと、「未払法人税等」が1,188百万円減少したこと、「役員退職慰労引当金」が1,135百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

純資産は55,226百万円と、前連結会計年度末と比較して2,100百万円増加しました。これは主に、「利益剰余金」が2,016百万円増加（親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により3,282百万円増加、配当の実施により1,266百万円減少）したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、平成30年1月12日に公表しました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	17,001	16,607
受取手形及び売掛金	22,707	22,991
商品及び製品	9,578	10,990
仕掛品	10,822	13,715
原材料及び貯蔵品	200	209
繰延税金資産	1,252	1,354
その他	4,026	4,318
貸倒引当金	△239	△253
流動資産合計	65,351	69,934
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	18,876	18,390
機械装置及び運搬具(純額)	3,150	3,027
導管(純額)	21,088	19,976
土地	33,798	33,284
建設仮勘定	4,612	8,173
その他(純額)	1,260	1,254
有形固定資産合計	82,785	84,105
無形固定資産		
のれん	603	506
その他	1,127	992
無形固定資産合計	1,730	1,498
投資その他の資産		
投資有価証券	7,401	7,430
長期貸付金	6,248	5,832
繰延税金資産	3,563	3,552
その他	4,010	3,826
貸倒引当金	△460	△462
投資その他の資産合計	20,763	20,179
固定資産合計	105,279	105,784
資産合計	170,630	175,718

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年11月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,184	21,517
電子記録債務	2,131	2,700
短期借入金	9,962	13,561
1年内返済予定の長期借入金	10,877	8,952
未払法人税等	1,750	561
賞与引当金	2,479	2,659
役員賞与引当金	6	7
完成工事補償引当金	53	50
工事損失引当金	85	82
ポイント引当金	256	263
その他	12,690	12,021
流動負債合計	63,477	62,377
固定負債		
長期借入金	36,056	40,154
繰延税金負債	609	634
役員退職慰労引当金	1,210	74
株式報酬引当金	—	72
修繕引当金	153	174
退職給付に係る負債	12,561	12,068
その他	3,436	4,936
固定負債合計	54,027	58,114
負債合計	117,504	120,492
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	8,025	8,025
資本剰余金	24,518	25,174
利益剰余金	21,504	23,521
自己株式	△2,390	△3,135
株主資本合計	51,657	53,585
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	895	931
繰延ヘッジ損益	△54	△74
退職給付に係る調整累計額	△383	△286
その他の包括利益累計額合計	456	570
非支配株主持分	1,011	1,070
純資産合計	53,125	55,226
負債純資産合計	170,630	175,718

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年12月1日 至平成29年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年12月1日 至平成30年8月31日)
売上高	148,729	154,146
売上原価	108,379	113,041
売上総利益	40,350	41,104
販売費及び一般管理費	35,229	36,211
営業利益	5,121	4,893
営業外収益		
受取利息	97	88
受取配当金	58	63
その他	364	428
営業外収益合計	519	580
営業外費用		
支払利息	114	105
持分法による投資損失	27	1
デリバティブ評価損	—	445
その他	92	131
営業外費用合計	234	684
経常利益	5,406	4,789
特別利益		
固定資産売却益	87	45
投資有価証券売却益	1	—
特別利益合計	88	45
特別損失		
固定資産除売却損	48	53
投資有価証券売却損	—	0
投資有価証券評価損	0	15
特別損失合計	48	69
税金等調整前四半期純利益	5,446	4,765
法人税、住民税及び事業税	1,475	1,366
法人税等調整額	369	58
法人税等合計	1,845	1,424
四半期純利益	3,601	3,340
非支配株主に帰属する四半期純利益	77	57
親会社株主に帰属する四半期純利益	3,523	3,282

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年12月1日 至 平成29年8月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年12月1日 至 平成30年8月31日)
四半期純利益	3,601	3,340
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29	36
繰延ヘッジ損益	—	△20
退職給付に係る調整額	103	98
その他の包括利益合計	133	114
四半期包括利益	3,734	3,454
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,655	3,396
非支配株主に係る四半期包括利益	79	58

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年12月1日至平成29年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				
	エネルギー& ソリューションズ 事業	エンジニア リング& メンテナンス事業	ハウジング事業	カーライフ サポート事業	アニマル ヘルスケア事業
売上高					
外部顧客への売上高	65,437	20,272	24,211	9,952	19,006
セグメント間の内部売上高又は 振替高	1,405	3,972	44	29	4
計	66,843	24,245	24,255	9,982	19,011
セグメント利益又はセグメント損 失(△)	3,239	755	488	△170	515

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	プロパティ事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	7,540	146,420	2,308	148,729	—	148,729
セグメント間の内部売上高又は 振替高	341	5,798	1,235	7,034	△7,034	—
計	7,882	152,219	3,544	155,764	△7,034	148,729
セグメント利益又はセグメント損 失(△)	632	5,460	57	5,518	△397	5,121

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車部品製造、割賦販売及びリース等を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△397百万円には、セグメント間取引消去666百万円、全社費用△1,063百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成29年12月1日至平成30年8月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				
	エネルギー& ソリューションズ 事業	エンジニア リング& メンテナンス事業	ハウジング事業	カーライフ サポート事業	アニマル ヘルスケア事業
売上高					
外部顧客への売上高	71,094	21,073	23,807	11,072	19,711
セグメント間の内部売上高又は 振替高	1,783	5,067	34	39	0
計	72,877	26,141	23,841	11,111	19,711
セグメント利益又はセグメント損 失(△)	3,444	1,130	△101	△66	601

	報告セグメント		その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	プロパティ事業	計				
売上高						
外部顧客への売上高	4,242	151,001	3,144	154,146	—	154,146
セグメント間の内部売上高又は 振替高	384	7,309	1,110	8,419	△8,419	—
計	4,627	158,310	4,255	162,565	△8,419	154,146
セグメント利益又はセグメント損 失(△)	228	5,237	85	5,322	△429	4,893

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、自動車部品製造、割賦販売及びリース等を含んでおります。
2. セグメント利益又はセグメント損失(△)の調整額△429百万円には、セグメント間取引消去560百万円、全社費用△990百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又はセグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。